

## なし黒星病の発生が県内各地で急増しています。 今後の黒星病発生増加に注意しましょう！！

当センターのなし巡回調査（6月11～14日）において、県内各地で黒星病（写真1、2）の発生が見られています（図1）。気象予報（6月15日発表）では、向こう1か月は曇りや雨の日が多い見込みで、降水量が平年並または多い確率が高いことから、今後も発生の増加が懸念されます。

特に、幸水は、果実肥大後期の7月上旬から黒星病の感受性が高くなるため、注意が必要です。

罹病、発病部位の除去を徹底するとともに、発生が多い園では、薬剤散布間隔に注意しながら治療効果が期待できる薬剤を散布しましょう。



写真1 葉の病斑



写真2 果実の病斑

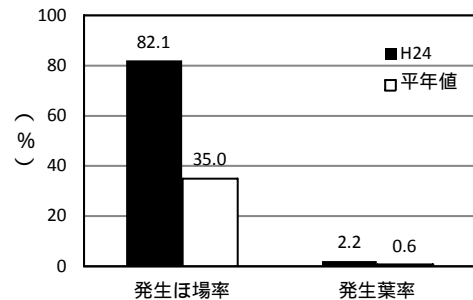


図1 なし黒星病の発生状況（6月）

### 【発生状況】

- 6月の巡回調査の結果は、発生ほ場率が82.1%、発生葉率が2.2%と平年に比べ高い状況でした（図1）。
- 一部のほ場では、果実での発生が目立っています。

### 【防除対策】

- 発病した果そう基部、罹病した葉、果実は二次伝染源となるので、見つけ次第剪除してほ場外に持ち出し、埋却等により適切に処分する。
- 現在、葉に発病が多いほ場では、治療効果が期待できる剤を6月中旬から7月中旬に散布する（表1）。
- 黒星病は感染から発病までに15日程度の潜伏期間があるため、発病した葉や果実が見つからない場合でも、ほ場内をよく観察し、発生密度が高くなるよう発生初期の防除徹底に努める。

表1 なし黒星病に登録のある主な防除薬剤（6月中旬～7月中旬）（平成24年6月18日現在）

薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数
ストロビードライフロアブル	3,000倍	収穫前日まで / 3回以内
ナリアWDG	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内
アフエットフロアブル	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内
ベルコートフロアブル	1,500倍	収穫14日前まで / 5回以内 <sup>1</sup>
オキシラン水和剤	500～600倍	収穫3日前まで / 9回以内 <sup>2</sup>
キノドーフロアブル	1,000倍	収穫3日前まで / 9回以内 <sup>2</sup>

注1) 必ず農薬容器のラベルをよく読み、使用方法・使用上の注意事項を守る。

1 イミノクタジン（ベルコートの成分）の使用にあたっては、塗布剤は2回以内、液剤は1回以内とする。

2 オキシラン水和剤とキノドーフロアブルは有効成分として有機銅を含むため両薬剤の使用回数は合わせて9回以内とする。

注2) 薬剤散布に当たっては、周囲への飛散（ドリフト）に十分注意する。

注3) 発生が多く、間隔をつめて薬剤散布する場合は、近接散布による薬害発生に十分注意する。

詳しくは、農業環境指導センター（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>）までお問合せ下さい。  
また、当センター携帯サイト（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/keitai.htm>）もご利用下さい。

（ 0 2 8 - 6 2 6 - 3 0 8 6 ）